

キャラクター名
氷上 優 (ひかみ ゆう)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	バーテンダー
	パロール					
オプション			年齢	21	性別	男
覚醒	生誕	衝動	加虐	初期侵食率	32	%
出自	天涯孤独	経験	敵対組織	邂逅	同士	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	10
精神	3	0	1	2		6	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	7		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Absolute Gravity	RC	8r+7		9		[黒の鉄槌Lv1+氷の塔Lv2+コンセイトレイトLv2+結合粉砕Lv2]
Freeze archer	RC	8r+7		6		[氷の塔Lv2+コンセイトレイトLv2+結合粉砕Lv2]
Celsius Garden	RC	12r+7		30		[黒の鉄槌Lv2+氷の塔Lv3+コンセイトレイトLv3+結合粉砕Lv3+プラズマカノンLv3]

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 情報屋	
コネ: 噂好きの友人	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
亜純血	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセイトレイト	2	2	Mj	-	自身	-		
効果: C値-Lv								
因果歪曲	2	3	Mj	-	範囲	-	S	
効果: 同エンゲージ外の対象を範囲に変更。1シナリオLv回まで								
斥力跳躍	2	1	Mn	-	自身	自動	-	
効果: Lv*2m移動。飛行状態で移動。								
黒の鉄槌	5	1	Mj	視界	-	<RC>	-	
効果: 同エンゲージ不可。[攻撃力+Lv*2+2]								
プラズマカノン	2	4	Mj	視界	単体	<RC>	100	
効果: [攻撃力+LV*5]								
結合粉砕	2	4	Mj	-	-	-	S	
効果: 装甲無視、D+Lv								
氷の塔	4	4	Mj	視界	範囲	<RC>	-	
効果: 同エンゲージ不可。[攻撃力+Lv*3]								
氷雪の守護	2	3	O	至近	自身	-	-	
効果: 1ラウンドに1回。ダメージ-[Lv+1]D								
フェニックスの翼	2	4	C	至近	自身	-	-	
効果: LV*5 回復								
ディメンションゲート	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【真相】
クロスブリードでありながら特定のシンドロームに精通する「亜純血」であり、サラマンダーの力に精通している。生まれつきオーヴァードに覚醒していたが、自身の体がオーヴァードの力と拒絶反応を起こし、体に大きく負担がかかっている。結果、「オーヴァードの力が身体の内蔵に負荷をかけ、内蔵不良による病」を多数発症してしまっている。先天的な障害を解消するためにFH・裏社会等いろんな業界を渡りあるいたものの、有効な手段を見つかることができずに14歳の頃UGNに保護された。FHやデウス等様々な組織を渡り歩き、現在はUGNに身を寄せる。本人は仕方なしにUGNに所属したのだ。

UGNに所属して以来、実力にものを言わせ、日本支部の支部長から手先として地方支部に派遣され、イリーガルや現地UGNエージェントと協力して仕事に追われていた。そこに日常の平和を望む心はなく、むしろ死に場所を求めるような自殺願望と、自身の事情を知らずに自身を必要とする人達への罪悪感、遺憾の思いしかない。故に、自分がなぜ生きているのか、UGNの仕事は何故しているのかと問われれば「それが自分の人生だったから」としか答えない。周囲の人を助ける、平和を守るといった大それた理由はなく、ただただ自分の感情を優先しており、結果的にそれがUGNの意向と利益が合致するために任務を遂行しているのみだ。もともと自分のオーヴァードの力によって死ぬことは悟っているため、死に関しての恐怖心はない。

彼が唯一、気にかけていること。それは自身の死によって他者に与える影響を危惧している。自らの症状が露呈することで、周囲が混乱すること、そして感情の高まりにより他者がジャーム化することに関しては敏感。状況によっては任務、他者の人生観に及ぼすことは、「自分の感情や事情を優先してきた」仁にとって非常に心苦しいことなのだ。自分がそうして生きてきたから、こそ。